

自然の中で学ぶ事の尊さ

富山県農村医学研究会 会長 越山 健二

私はいま全国組織である「明るい社会づくり推進協議会」に加入し、たまたま、お盆、正月を間近にして行われる募金運動に、参加する機会がある。そこで感ずる事は、募金をして戴く人たちに、一つの傾向があるような気がする。それは何れも天地の恩恵を思い、感謝、報恩の気持から、人のいたみをよけいに感じておられる人たちのようである。暮らしに、ゆとりがあると思われる人というよりも、むしろきびしい日々を真剣にすごす人達で、中には2、3人の幼児をかかえた婦人もあり、全般的には、若者よりも高齢者が多いようである。金銭の多寡は別にして、この行為に、深い感謝の気持ちにさせられる事が多い。先日ある会合で、心や人間性の問題で「教養値」と「支配値」についての話を伺った。教養は学問もさることながら本当のものは、自然の中で築かれるもので、自然の中で学んだ事は、一生涯、肌身について離れないという。それは日々のくらしの中で肌身に感じ、蓄積されてゆくもので大地に学ぶ農業の中に多くの示唆があると思う。いま日本の農業は、きびしい環境にあるといわれている。経済的に希望がもてず、後継者も少なくなり苛酷さが加速されている。特に本年（平成5年）貿易不均衡から米は自由化の可否をめぐる、国民の大きな関心の的になっている。私はつねづね健康は「身体」と「心」と家庭や、村、職場など「環境」の3部面から把握し評価すべきだと言ってきた。

今日の豊かな生活の中で、この3者がそれぞれ衰弱し特に心の不健康が指摘されている。この事は昔から、農を以て、国是となすという基本概念から離れ、農業が変貌するにつれ、天地からはなれ、土ばなれがすすんだ事に原因があるようにも思う。農は、食糧のみならず、水の確保や、国土の保全、災害防止、連帯と協力など伝統文化の継承、重要な役割がある。なかでも人間として最も重要と思われる教養値についてである。それを高めるためには、これまでの農業をじっくり見直し、反省と検討を加え、近代社会に適合した新しい農業、新しい農家、新しい農村の創造が重要だと思う。

今日は科学、技術の世代といわれ、智力、記憶など、学問の分野で得た細分化された能力が重視されている。偏差値、合理化、能率化など、数量化が重視され、それによって支配し、系列化が行われている。

支配値は、日本の経済発展に重要な使命を果たしているが、反面、視野が狭く、単眼視的で、人間としての大事なものが欠落し、それが目立つようになってきた。

間近に迎える21世紀は、人口、食糧、エネルギー、平和、健康など国際的視野で大きな難問がせまっている。支配値を重視する科学、技術にも限界があり、しづかに天地自然の中で培われる教養を、いかに肌身につけるか、いま農業に期待される使命は重要と考えている。